

決算補足説明資料

2016年度（2017年3月期）第2四半期 決算概要

2016年10月27日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/>

この資料には、現時点の将来に関する前提・見通しに基づく予測が含まれております。
実際の業績等は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

I . 2016年度（2017年3月期） 第2四半期決算概要

連結損益比較表 (サマリー)

	2016年度2Q末	2015年度末	
連結子会社	94社	93社	+1社
持分法適用関連会社	11社	10社	+1社
計	105社	103社	+2社

増加：2社
減少：1社

増加：1社

(単位：百万円)

	2016年度 2Q累計	2015年度 2Q累計	比較増減	増減率	備考
営業収益	359,950	356,657	+3,293	+0.9%	
営業利益	58,348	57,416	+931	+1.6%	次ページ参照
営業外収益	5,409	5,159	+250		
営業外費用	7,061	7,233	△171		
経常利益	56,696	55,342	+1,353	+2.4%	
特別利益	1,514	10,373	△8,858		工事負担金等受入額 △9,769
特別損失	1,785	13,148	△11,363		固定資産圧縮損 △9,680
親会社株主に帰属する 四半期純利益	38,587	34,361	+4,226	+12.3%	

(注) 当期より国際輸送事業の輸出混載貨物に係る取引等について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しています。
この変更に伴い、前年同期の営業収益については、遡及適用後の金額（総額表示）となっています。なお、この変更による利益への影響はありません。

(参考)

減価償却費	25,813	26,126	△313
金融収支 (A) - (B)	△5,215	△5,776	+560
受取利息及び配当金 (A)	587	640	△52
支払利息 (B)	5,802	6,416	△613

セグメント別営業成績（サマリー）

【当期業績のポイント】

不動産事業において賃貸事業が堅調に推移したことや、エンタテインメント・コミュニケーション事業において阪神タイガースの公式戦の入場人員が増加したこと等により、増収・増益

	都市交通	不動産	エンタテインメント・ コミュニケーション	旅行	国際輸送	ホテル	その他	調整額	連結
	（単位：百万円）								
営業収益									
2016年度2Q累計	119,628	95,233	63,025	15,403	34,978	31,898	18,343	△18,561	359,950
2015年度2Q累計	119,922	88,588	60,497	16,492	40,039	33,281	15,328	△17,491	356,657
比較増減	△293	+6,645	+2,528	△1,088	△5,061	△1,382	+3,014	△1,069	+3,293
営業利益									
2016年度2Q累計	23,645	19,018	14,511	410	568	985	610	△1,402	58,348
2015年度2Q累計	23,313	17,982	13,828	1,020	713	1,781	△7	△1,215	57,416
比較増減	+331	+1,036	+683	△610	△144	△796	+618	△186	+931

（注）当期より国際輸送事業の輸出混載貨物に係る取引等について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しています。

この変更に伴い、前年同期の営業収益については、遡及適用後の金額（総額表示）となっています。なお、この変更による営業利益への影響はありません。

(株)いいなダイニング
持分法適用関連会社化の影響
営業収益 約△10億円

都市交通セグメント

中食事業を展開している(株)いいなダイニングが連結子会社から持分法適用関連会社となった影響があったものの、バス事業において2016年3月に尼崎市交通局から市営バスの全路線を譲り受けたこと等により、営業収益は前年同期並み。利益面では、鉄道事業において動力費が減少したこと等により増益

(単位：百万円)

	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	119,628	119,922	△293	△0.2%
営業利益	23,645	23,313	+331	+1.4%

不動産セグメント

梅田地区の賃貸ビルが堅調に推移したことや、宅地・戸建の分譲区画数が増加したこと等により、増収・増益

(単位：百万円)

	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	95,233	88,588	+6,645	+7.5%
営業利益	19,018	17,982	+1,036	+5.8%

《都市交通》 鉄道運輸成績

《阪急電鉄》

	収入				人員			
	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	31,229	31,312	△82	△0.3	158,615	158,851	△236	△0.1
定期	16,621	16,448	+173	+1.1	169,666	167,801	+1,865	+1.1
うち通勤	14,206	14,034	+171	+1.2	116,275	114,688	+1,587	+1.4
うち通学	2,415	2,413	+2	+0.1	53,390	53,112	+278	+0.5
合計	47,851	47,760	+90	+0.2	328,281	326,652	+1,629	+0.5

《阪神電気鉄道》

	収入				人員			
	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	10,867	10,848	+18	+0.2	59,864	59,601	+262	+0.4
定期	5,857	5,764	+92	+1.6	60,936	59,966	+969	+1.6
うち通勤	5,226	5,146	+79	+1.5	47,730	47,067	+663	+1.4
うち通学	630	617	+12	+2.1	13,205	12,899	+306	+2.4
合計	16,724	16,613	+111	+0.7	120,800	119,568	+1,232	+1.0

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示しています。
 2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、PiTaPa区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいます。
 3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計です。

エンタテインメント・コミュニケーションセグメント

スポーツ事業において、阪神タイガースの公式戦の入場人員が増加したことや、飲食・物販売上が好調に推移したことに加え、インターネットスポーツ中継サイトへのライブ配信を開始したこと等により、増収・増益

	(単位：百万円)			
	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	63,025	60,497	+2,528	+4.2%
営業利益	14,511	13,828	+683	+4.9%

旅行セグメント

海外旅行において、国際情勢の悪化の影響を受け、特にヨーロッパ方面の集客が減少したほか、国内旅行において、四国お遍路の逆打ち等、話題性の高い方面の集客が好調に推移したものの、「平成28年熊本地震」の影響で九州方面の集客が減少したこと等により、減収・減益

	(単位：百万円)			
	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	15,403	16,492	△1,088	△6.6%
営業利益	410	1,020	△610	△59.8%

国際輸送セグメント

海外法人において、東アジア・アセアンは海上輸出を中心に堅調に推移したものの、米州・欧州は航空輸送が低調に推移し、また為替変動により円換算額が減少したことに加えて、日本法人においても、物流需要の落込みに伴い航空輸送が伸び悩んだこと等により、減収・減益

(単位：百万円)

	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	34,978	40,039	△5,061	△12.6%
営業利益	568	713	△144	△20.3%

(注) 当期より国際輸送事業の輸出混載貨物に係る取引等について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しています。

この変更に伴い、前年同期の営業収益については、遡及適用後の金額（総額表示）となっています。なお、この変更による営業利益への影響はありません。

ホテルセグメント

ホテル外でのレストラン等の運営を一部取り止めたことや、婚礼宴会部門が低調に推移したこと等により、減収・減益

(単位：百万円)

	2016年度2Q累計	2015年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	31,898	33,281	△1,382	△4.2%
営業利益	985	1,781	△796	△44.7%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2016年度2Q末	2015年度末	比較増減	備考
資産の部	流動資産	253,563	255,535	△1,972	
	固定資産	2,040,508	2,026,644	+13,864	
	資産合計	2,294,071	2,282,180	+11,891	
負債の部	流動負債	429,555	456,134	△26,579	
	固定負債	1,096,920	1,101,807	△4,887	
	負債合計	1,526,476	1,557,942	△31,466	
純資産の部	株主資本	731,533	686,695	+44,837	親会社株主に帰属する四半期純利益 +38,587 会計方針の変更による影響 +15,281 自己株式 △5,163 支払配当 △4,413 など
	その他の包括利益累計額	19,076	20,639	△1,562	
	新株予約権	496	424	+72	
	非支配株主持分	16,489	16,478	+10	
	純資産合計	767,595	724,237	+43,357	

	2016年度2Q末	2015年度末	比較増減
借入金	799,336	795,010	+4,326
社債	102,000	112,000	△10,000
リース債務	9,061	9,559	△498
連結有利子負債	930,398	916,570	+13,828
未払金	△29,897		
長期繰延税金負債	△12,692		
(うち会計方針の変更による影響 △15,281)			

Ⅱ. 2016年度（2017年3月期） 通期業績予想

連結損益比較表(サマリー)

(単位：億円)

	2016年度 今回予想 ①	2016年度 5月予想 ②	比較増減 = ① - ②	増減率	主な増減要因	2015年度 通期実績 ③	比較増減 = ① - ③
営業収益	7,400	7,600	△200	△2.6%	国際輸送事業において海外法人での円換算額が為替変動により減少することや、都市交通事業において中食事業を展開している(株)いいなダイニングが連結子会社から持分法適用関連会社となった影響等により減収	7,468	△68
営業利益	970	950	+20	+2.1%	阪神タイガースの公式戦の入場人員及び宝塚歌劇の観劇人員の増加や、鉄道事業において動力費及び減価償却費が減少すること等により増益	1,103	△133
経常利益	920	890	+30	+3.4%	持分法による投資利益の増加等	1,045	△125
親会社株主に帰属する 当期純利益	640	600	+40	+6.7%		700	△60

(注) 当期より国際輸送事業の輸出混載貨物に係る取引等について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しています。
この変更に伴い、前期の営業収益については、遡及適用後の金額(総額表示)となっています。なお、この変更による営業利益への影響はありません。

(参考) 減価償却費	537	546	△9			537	△0
金融収支 (A) - (B)	△102	△114	+12			△114	+12
受取利息及び配当金 (A)	10	10	—			11	△1
支払利息 (B)	112	124	△12			125	△13
設備投資	950	831	+119			666	+284

セグメント別営業収益・営業利益

(単位：億円)

上段：営業収益 下段：営業利益	2016年度 今回予想 ①	2016年度 5月予想 ②	比較増減 =①-②	営業利益の主な増減要因	2015年度 通期実績 ③	比較増減 =①-③
合計	7,400	7,600	△200		7,468	△68
	970	950	+20		1,103	△133
[主な内訳]						
都市交通	2,379	2,432	△53	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 糊いいなダイニング持分法適用関連会社化の影響 駆け込み需要の減(消費税率引上げの延期) </div> 鉄道事業における動力費や減価償却費の減少等	2,395	△16
	404	398	+6		413	△9
不動産	2,202	2,236	△34	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> マンション分譲戸数の減少等 </div> 賃貸事業における修繕計画の見直しや、宅地・戸建の分譲 区画数の増加等	2,209	△7
	392	382	+10		499	△107
エンタテインメント・ コミュニケーション	1,133	1,103	+30	阪神タイガースの公式戦の入場人員及び宝塚歌劇の観劇 人員の増加等	1,125	+8
	134	126	+8		153	△19
旅行	301	320	△19	ヨーロッパ方面の集客が減少することに加え、「平成28年熊 本地震」の影響等	305	△4
	5	15	△10		7	△2
国際輸送	717	803	△86	海外法人での円換算額が為替変動により減少することに加 え、米州・欧州は航空輸送が低調に推移すること等	761	△44
	18	22	△4		18	+0
ホテル	664	678	△14	宿泊部門において、平均客室単価が想定を下回ること等	680	△16
	30	35	△5		33	△3

(注) 当期より国際輸送事業の輸出混載貨物に係る取引等について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しています。

この変更に伴い、前期の営業収益については、遡及適用後の金額(総額表示)となっています。なお、この変更による営業利益への影響はありません。

《都市交通》 鉄道運輸成績 (通期予想)

《阪急電鉄》

	収 入				人 員			
	2016年度予想	2015年度実績	比較増減	増減率	2016年度予想	2015年度実績	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	62,795	62,920	△124	△0.2	318,475	319,023	△548	△0.2
定期	32,617	32,272	+345	+1.1	329,138	325,540	+3,598	+1.1
うち通勤	28,118	27,790	+327	+1.2	229,644	226,852	+2,791	+1.2
うち通学	4,499	4,481	+17	+0.4	99,494	98,688	+806	+0.8
合計	95,413	95,192	+220	+0.2	647,613	644,563	+3,050	+0.5

《阪神電気鉄道》

	収 入				人 員			
	2016年度予想	2015年度実績	比較増減	増減率	2016年度予想	2015年度実績	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	21,112	21,035	+77	+0.4	117,283	116,440	+842	+0.7
定期	11,560	11,372	+187	+1.6	119,684	117,786	+1,897	+1.6
うち通勤	10,359	10,193	+166	+1.6	94,532	93,131	+1,401	+1.5
うち通学	1,200	1,179	+20	+1.8	25,152	24,655	+496	+2.0
合計	32,672	32,407	+264	+0.8	236,967	234,226	+2,740	+1.2

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示しています。
2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、PiTaPa区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいます。
3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計です。

経営指標の見通し（2016年度）

	2015年度 実績	2016年度 5月発表予想	2016年度 10月発表予想
営業利益	1,103億円	950億円	970億円
EBITDA	1,665億円	1,520億円	1,530億円
有利子負債	9,166億円	9,300億円	9,400億円
有利子負債/ EBITDA倍率	5.5倍	6.1倍	6.1倍
D/Eレシオ	1.3倍	1.2倍	1.2倍
親会社株主に帰属 する当期純利益	700億円	600億円	640億円
ROE	10.3%	8.0%	8.6%

(参考)

ネット有利子負債 ※	8,923億円	9,050億円	9,150億円
ネット有利子負債/ EBITDA倍率	5.4倍	6.0倍	6.0倍

※有利子負債から現金及び預金を控除した金額